



奥多摩の本仁田山～奥秩父の瑞牆山まですべての稜線を一笔書きにつなげてやろうと思っていた。川苔山から蕎麦粒山を経て一杯清水までが残ってしまった。これが案外手こずって3年がかりになってしまった。2012年は日原鍾乳洞までのバスが長期間運休になってしまって川苔山までしか行けなかった。2013年は道に迷ってしまったので本仁田山で引き返した。ともに日帰りの強行登山を狙って失敗したので、今回は宮川さんを誘って一泊とした。宮川さんはこの間はすでに歩いたことがあるので、ダワ尾根経由にしようかと提案された。ダワ尾根のルートは地図には道のしるしが無い。しかし奥多摩の尾根筋は地図に道がなくてもほとんど道はついていると聞いたことがある。なんとかなるだろうと思ってその案に乗ることにした。

一石神社から一石山経由で人形山へ出る。ここまでの登りは急勾配でケッコウ効く。踏み跡はあるが、この季節であるので枯草が道を覆ってしまって分かりづらい所もある。ただし人形山・金袋山・スズ坂の丸・ウトウノ頭など山名表示は



金袋山のミズナラ



モノレール

しっかりしているので現在地確認には苦労しない。こんな所ではだれにも会わないだろうと思っていたが、登りも降りも5人くらいずつ会った。ウトウノ頭からの下りは、枯草が多くて特にわかりづらかった。稜線に出る最後の登りのダワ尾根の頭近くになるとモノレールが出てくる。何の目的かわからないが、まだ新しくよく整備もされているようなので現役なのであろう。この時点ですでに日射しは暮れかけていた。酉谷小屋まで1時間としてナントカ日暮れ前には着けるであろうと踏んでいたのが、現実には甘くはなかった。酉谷小屋へ着いた時には真っ暗になっていたがヘッドランプは出さずに済ませてしまった。暗くなることは想定していなかったのでザックの下の方に入れてしまっていた。この日の万歩計数値は17000歩弱であるが、ダワ尾根までは10000歩一寸であった。その割にはきつかった。酉谷小屋には先着者が一人いた。定員6人と狭い小屋であるが、毛布や銀マットも用意されており、トイレもきれいに清掃されている。この季節の所為か水の出はチョロチョロであった。宮川さんが食事の準備万端に用意してくれていたのが快適な一夜を過ごすことができた。例によってワンカップ焼酎で良い気持ちになった。

翌日は、今回の私の目標である蕎麦粒山前後の未沓の地の踏破である。一杯清水までコースタイムは2時間であるが30分以上オーバーする。感覚的にはそれほど遅いとも思えないのであるが、今回は全般的に遅い。宮川さんの場合は荷物の重さもあるだろうが、私の方はいつもの通り余計なものは持ってこないで重さも知れている。歳の所為にはしたくないが、結果がそれを証明してしまっている。蕎麦粒山の前後はいかにも奥多摩らしくなだらかな稜線が続く。どこでも昼寝ができるという感じである。こんな稜線が一杯清水から川苔山まで続く。川苔山近くになると昭文社の地図はケッコウ好い加減だ。なんか納得のいかないところもある。この日もコースタイムは時間が掛った。追い抜かれるのが当たり前になってしまった。万歩計数値は47885。まあバテたって仕方ないか。



このほか一筆書きをした山塊を挙げる。

- 大雪山系 姿見の池～旭岳～北鎮岳～白雲岳避難小屋～トムラウシ山～オプタテシキ山～十勝岳
- 谷川山系 三国山～平標山～仙ノ倉山～万太郎山～谷川岳～蓬峠～谷川朝日岳～白毛門
- 八ヶ岳 蓼科山～北横岳～天狗岳～硫黄岳～赤岳～権現岳～網笠山
- 北アルプス 朝日岳～白馬岳～唐松岳～五竜岳～鹿島槍ヶ岳～針ノ木岳～水晶岳～鷲羽岳～双六岳  
 ⇔ 餓鬼岳～燕岳～大天井岳～常念岳～蝶ヶ岳  
 ⇔ 槍ヶ岳～奥穂高岳～上高地⇔笠ヶ岳⇔三俣蓮華岳～黒部五郎岳～薬師岳～立山～剣岳
- 中央アルプス 木曾駒ヶ岳～空木岳～越百山～安平路山～摺古木山
- 南アルプス 鳳凰三山～甲斐駒ヶ岳～仙丈ヶ岳～三峰岳⇔北岳～間ノ岳～農鳥岳⇔塩見岳～荒川岳  
 ～赤石岳～聖岳～茶臼岳～光岳